

宮城県における春播小麦の栽培法

第1報 播種期と生育, 収量

小野寺 真・柳原 元一・渡辺 源六*・高橋 昌明**

(宮城県農業センター・*宮城県農政部農業普及課・**白石農業改良普及所)

Cultivation Method of Spring-sown Wheat in Miyagi Prefecture

1. The effect of seeding period upon the growth and yield

Makoto ONODERA, Genichi YANAGIHARA, Genroku WATANABE*
and Masaaki TAKAHASHI**(Miyagi Prefectural Agricultural Research Center・*Agric. Policy Div. Agric. Extension Sec.)
(of Miyagi Prefectural Government Office・**Shiroishi Agricultural Extension Service Station)

1 はじめに

小麦は不良天候により播種期限内に播種できず、晩後に播種される場合もあるが、このような場合には品質や収量の低下をもたらしている。

麦類は、土地利用型の作物として、転作の中で比較的大きな面積を占めており、秋播栽培が困難となった場合にその対策として春播栽培が可能であれば非常に有利である。

昭和56年宮城県の奨励品種に採用された「フクホコムギ」は、播性Ⅱと春播性が高い。そこで昭和57年～58年(播種年度)の2カ年で「フクホコムギ」による宮城県における春播の栽培の可能性について検討したので以下その概要について報告する。

2 試験方法

- (1) 試験実施年度 昭和57年～58年(播種年度)。
(2) 供試品種 フクホコムギ
(3) 栽培様式 条播栽培(畦幅75cm, 播幅15cm)。
(4) 試験区の構成
試験区の構成

No.	播種期 (月・日)	播種量 (kg/a)	施肥量 (kg/a)		
			N	P ₂ O ₅	K ₂ O
1	3.15	0.75	0.50	0.55	0.50
2	3.25	0.75	0.50	0.55	0.50
3	4.5	0.75	0.50	0.55	0.50
4 (標)	10.25	0.50	0.4+0.2	0.44	0.40

3 試験結果

- (1) 試験Ⅰ(昭和57年度)
生育調査成績を表1に示した。
供試した「フクホコムギ」は春播きでも出穂し、成熟期に達した。

出穂までの日数は57日～66日、生育日数は99日～113日を要し、播種期が遅れるほど日数が短縮した。結実日数は春播きで42～47日と秋播きの51日と大きな差はなかった。

稈長は各播種期とも75cmで、秋播きの90cmに比較し短程

となった。穂長、穂数は3月播きと秋播きとの差は小さかったが、4月播きでは3月播きに比較し、穂長は短く、穂数も少なかった。

表1 生育調査成績(昭和57年度)

区 No.	出穂期 (月・日)	出穂まで 日数 (日)	成熟期 (月・日)	結実 日数 (日)	生育 日数 (日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
1	5.20	66	7.6	47	113	75	7.5	403
2	5.22	58	7.8	47	105	75	7.5	395
3	6.1	57	7.13	42	99	75	7.2	360
4	4.29	186	6.19	51	237	90	8.3	410

収量調査成績を表2に示した。

子実重は、3月15日播きで35.8kg/a、3月25日播きで35.2kg/aで標準の秋播きの48～49%の収量にとどまった。4月5日播きでは29.0kg/aで、秋播きの40%と更に収量が低下した。

1ℓ重、千粒重は播種期が遅くなるほど軽くなったが、3月15日播きと3月25日播きとの差は小さく、4月5日播きでは1ℓ重が704g、千粒重が27.5gと低下した。みかけの品質は春播きが秋播きに比較して劣る傾向がみられた。また播種期間では、3月15日播きと3月25日播きとの間には差がなく、4月5日播きは3月播きよりも劣った。

表2 収量調査成績(昭和57年度)

区 No.	稈 重 (kg/a)	子 実 重 (kg/a)	く ず 重 (kg/a)	子 実 対 準 比 (%)	1 ℓ 重 (g)	千 粒 重 (g)	品 質
1	30.7	35.8	0.17	49	752	36.4	中中
2	34.0	35.2	0.17	48	735	34.1	中中
3	34.0	29.0	0.33	39	704	27.5	中下
4	62.0	73.8	0.10	100	778	44.5	中上

- (2) 試験Ⅱ(昭和58年度)

生育調査成績を表3に示した。

出穂まで日数は64日～80日、生育日数は103日～120日を要したが、結実日数は約40日で秋播きと大差なく、前年度

と同傾向であった。

稈長は播種期による差が小さく、72～75 cm となったが、秋播きの70 cmに比較し長くなった。このことは、秋播きが長期異常低温により極めて生育不良となったことによるものと考えられる。穂長、穂数は播種期が遅いほど、穂長は短く、穂数は少ない傾向がみられた。

収量調査成績を表 4 に示した。

子実重は3月15日播きで23.7 kg/a, 3月25日播きでは23.3 kg/a で、標準の秋播きの約69%であり、4月5日播きでは21.2 kg/a で秋播きの約60%であった。1 ℓ 重, 千粒重は前年同様に播種期が遅くなるほど軽くなる傾向がみ

られた。秋播きは不良天候により千粒重が極めて軽かったため、春播きの千粒重は高い値を示した。

表 3 生育調査成績(昭和58年度)

区 No.	発 芽 日 数 (日)	出 穂 期 (月日)	出日 穂ま で数 (日)	成 熟 期 (月日)	結 実 日 数 (日)	生 育 日 数 (日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (kg/a)
1	22	6. 3	80	7.13	40	120	75	7.7	343
2	16	6. 5	72	7.14	39	111	72	7.3	334
3	14	6. 8	64	7.17	39	103	75	7.2	328
4	16	5.22	210	7. 3	42	252	70	8.2	339

表 4 収量調査成績(昭和58年度)

区 No.	稈 重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	く ず 重 (kg/a)	子実重対 標準比 (%)	1 ℓ 重 (g)	千粒重 (g)	品 質	粒厚分布(重量比%)		
								2.2 mm 以上	2.0 mm～2.1	1.9 mm 以下
1	29.3	23.7	0.5	69	758	32.5	中下	96	3	1
2	24.0	23.3	0.5	68	752	31.3	中下	96	3	1
3	29.7	21.2	1.1	61	739	30.5	中下	94	4	2
4	36.3	34.5	0.2	100	701	28.2	中下	97	2	1

4 ま と め

宮城県において播性Ⅱの早生小麦「フクホコムギ」を春播きした結果、成熟期に達した。

3月中に播種した場合、標準の秋播きに対して約50%～70%の収量が確保可能であったが、4月5日播きでは約40

～60%と3月播きよりも収量は低下した。

みかけの品質は、秋播きに比較しやや劣った。

以上の結果から宮城県における春播小麦の栽培の可能性が確認された。この場合、3月中に播種することが必要である。